

宇部工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	現代社会 B
科目基礎情報				
科目番号	0005	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	制御情報工学科	対象学年	1	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	高等学校改訂版 新現代社会 (第一学習社) 標準高等地図―地図で読む現代社会― (帝国書院)			
担当教員	山下 祐志			

到達目標

- ① 社会科の基礎的知識として、例えば日本の県名や都市名、世界の首都が正しく書ける。
 ② 環境問題や時事問題、国際政治・経済の動向に関心を持つことができ、これらに関する新聞記事や報道の論調を理解できる。
 ③ 青年期の発達課題を自覚できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安
評価項目1	地図帳学習をとおして、基礎的な事項はほとんど解答できる。	地図帳学習をとおして、基礎的な事項は7割以上解答できる。	地図帳学習をとおして、基礎的な事項は6割以上解答できる。	地図帳学習をとおして、基礎的な事項が半分も解答できない。
評価項目2	環境問題や時事問題、国際政治・経済の動向について、その歴史的背景や課題を説明できる。	環境問題や時事問題、国際政治・経済の動向について、その概要を説明できる。	環境問題や時事問題、国際政治・経済の動向について、その概要を説明できる。	環境問題や時事問題、国際政治・経済の動向について、関心をもつことができるが、知識が不足している。
評価項目3	青年期の発達課題について十分な知識があり、主体的に日々の生活を営むことができる。	青年期の発達課題についてある程度の知識があり、意識して日々の生活を営むことができる。	青年期の発達課題についてある程度の知識があり、青年期の重要性は理解できる。	青年期の発達課題について多少の知識はあるが、日々の生活と結びつけて考えることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	第2学期開講 本講義は、高専5年間で学習する社会科諸科目の導入的な役割も担っている。したがって、教科書の内容に制約されず、広く自由な観点から現代社会の諸相を多面的にとらえ、社会科学一般の基本的な考え方やセンスを身に付けてもらえるよう工夫したいと思う。
授業の進め方・方法	小テストを行いながら、丁寧に、予習よりも復習を重視して授業を展開していく。内容等については、概要や注意点、授業計画を参照されたい。
注意点	基礎的な学力を身に付けるため小テストを繰り返すので、予習よりも復習が大切である。小テストの問題は定期試験の一部として出題するので、小テストそのものの成績は評価しない。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	経済のしくみ	アダム・スミスとケインズ、およびマルクスとフリードマンの経済理論について、その基本的な考え方を理解できる。
		2週	経済のしくみ	市場経済のしくみと基礎的な経済用語について説明できる。
		3週	経済のしくみ	中央銀行の役割について理解できる。
		4週	経済のしくみ	金融の自由化・国際化について、その概要を説明できる。
		5週	経済のしくみ	政府の役割と財政制度について理解できる。
		6週	経済のしくみ	公債残高の問題点と課題について説明できる。
		7週	調整とまとめ	これまでの学習内容を総括できる。
		8週	中間まとめ	前半のまとめとしてレポートを作成する。
	2ndQ	9週	変化する日本経済	戦後復興と高度経済成長について、時間軸で説明できる。
		10週	変化する日本経済	オイルショックからバブル経済までの流れが理解できる。
		11週	変化する日本経済	バブル崩壊後の日本経済の動向が説明できる。
		12週	変化する日本経済	現代の雇用・労働問題について、その概要が理解できる。
		13週	国際政治のしくみと動向	国際紛争を避けるしくみとして、勢力均衡政策と集団安全保障の考え方がとられてきたことを理解できる。
		14週	調整とまとめ	これまでの学習内容を総括できる。
		15週	学期末試験	
		16週	答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0